

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 20年 4月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	2270100461
法人名	有限会社 ケアシェルパ
事業所名	グループホーム あたがわ
所在地 (電話番号)	〒413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107 0557-22-6411

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(平成20年1月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年2月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1人, 常勤換算 13 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	1 階建て0.1階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4)利用者の概要(平成20年 1月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 79 歳	最低	60 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊豆東部総合病院(内科・外科) 熱川温泉病院(歯科)
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

間もなく開設2年を迎えるホームである。開設1年目は手探りで進んできた感があったが、業務内容の確認や見直し、対応の共有化、記録類の改良等この1年間の進歩は著しい。特に地域との交流については積極的に関わりを求め、結果利用者も地域住民との交流の中で安心して暮らし続けるという運営推進会議の所期の目的を達成している。経験から学びつつも、共同生活の中で馴れ合いにならないよう自戒しながら、利用者一人ひとりの希望や持てる力に応じた支援がされている。畑に出て大根を収穫した利用者の明るい笑顔と弾んだ声が印象深く残っている。これからの1年、ホームがどのように発展するか大いに楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回要改善項目として、居心地良い居室作りや居室の表示、介護計画の見直し、家族への情報提供、職員の研修受講、地域との関わり等を提示させていただいたが様々な工夫を試みながら改善に取り組んでいただけた。特に地域との関わりは運営推進会議とも相俟って目覚ましいものがあった。研修についてもまだ十分とは言えないが勉強会等実施されている。全体会議やミーティングの定期的な開催は今後の課題である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各ユニットごとに職員の意見を聞きながら自己評価を記述した。自己評価の意義や各項目が介護者に要求している意味を意識付けるために目を分けて話し合い、その結果具体的な事例を掘り下げたことにより介護の基本を振り返る機会となった。今回評価結果は報告会を開催してサービス向上に繋げる姿勢である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域委員や家族の参加を促す為に運営推進会議は敬老会や納涼祭、餅つき大会等行事と併せて開催したり、討議内容も無断外出時の対応や地域との交流等興味を持ちやすい身近な事がらとしている。出席委員より地域の行事やふれあい生き生きサロンを紹介していただき利用者の生活の広がりに寄与している。また災害時の地域住民による協力支援を委員を通してお願いしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) グループホームとして家族と話し合わなくてはならないことは多く、そのために意見や要望など普段から細かく聞きだしている。ホーム内で対処できること、医療関係者の指示と家族の意見をすり合わせて対処することなど、状況に応じて誠意を持った対応がされている。職員の日々の介護に家族からの信頼は厚い。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の方との日常的な交流の他、子供会の訪問による熱川太鼓やよさこいソーランの披露、工作やお話ボランティアの来訪、老人会のカラオケ訪問など地域のホームに対する関心の深まりと共に様々な繋がりが生まれている。また、祭りのお囃子に職員が参加することで地域に受け入れられ話を聞いた住民がホームを訪問するなど地域に溶け込むために積極的に取り組み、成果を出している。今後幼稚園や小中学校との交流も視野にあるので、利用者の楽しみまた地域への貢献に繋げていただきたい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「真心」を柱に「日々の暮らしにもっと自立とやすらぎを、生きがいのある暮らしを、優しい手の温もりと微笑を」の運営方針を掲げているが、地域密着型を意識した事業所としての理念を策定するため職員の意見を聞き出しているところである。	○	地域の中でその人らしく暮らしてゆくことを支える為の簡潔で明確な事業所の理念が掲げられることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や運営方針はホーム内に複数箇所掲示しており、職員の意識付けを図っている。職員同士理念の実現に向けて話し合い、助け合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のクリーン作戦に利用者が参加、周辺のゴミ拾いをして町内会の班員としての役割を果たした。また、お祭りの紙花の製作を利用者が受け持ち沢山作って喜んでいただいた。散歩の折には近所の方からみかんやお花をいただいたりして円滑な交流が出来ている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価記入はユニットごとに職員が話し合って記入した。自己評価の意義を理解し、意識付けを図るために曜日を決めて項目を分割して評価、出来たものは回覧した。話し合う中で「拘束とは」など具体的に例を挙げて掘り下げた項目もあり介護の基本を振り返る機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は8回開催されている。なかなか訪問できない家族にも参加していただけるよう、興味を持てるような内容にしたり、行事を絡めて一緒に楽しめるよう工夫している。委員の紹介で地区のふれあい生き生きサロンを利用したり、行事に参加したり利用者の楽しみの場が広がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の生活に関わる相談はもとより地域包括支援センターが主催する介護者クラブへ参加、町の介護施設が協力して高齢者の問題発生時に対応できるよう連絡網作り等取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子は「あたがわアルバム」と個々の様子を担当者が書いた手紙により毎月家族に報告されている。「物品購入や体調に変化があった場合の連絡もまめにいただいて安心だ」との家族の声もあった。家族訪問時に記録の閲覧もして具体的な日常を理解していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を引き出すよう玄関へ相談ポストを設置しているが現在までに上がった事例は無い。家族は意見や要望を直接申し出ており、ホームで対応できること、第三者と話し合わなければならぬこと等それぞれに応じ誠意を持って反映するべく取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置換え等は極力抑えている。職員の交代には慣れている職員が同行し利用者と安心して馴染みの関係が築けるように一通りを体験している。また、個人の記録簿をよく読んで前任者のやり方を参考にして支援に急激な差異のないように配慮している。ボランティアとして馴染んでから職員採用とすることもある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の外部研修受講までには至っていないが、より多くの職員が受講できる体制作りに取り組んでいる。計画作成担当者が看護師であり、薬や応急処置、感染症等についてマニュアルを作成し、それを基に内部勉強会を開催して、知識の共有を図っている。	○	ホーム職員全体のスキルアップを目指し、段階に応じた研修が受けられるよう計画的な受講システム作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表同士が同郷である近隣のグループホームと利用者も含めた交流を行っており、伺ったり迎えたりする中で職員はそれぞれの特徴を見極め、気付きを感じ取ってホームのサービス向上に反映できるよう取り組んでいる。地域の介護者クラブに参加して情報交換や地域福祉の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染みやすい度合いは個人により違うので、家族と良く話し合っって個々に対応している。家族のホーム訪問を頻回にさせていただいたり、家族との通話で安心したりと本人が納得できる方法をとっている。希望があればお試し入居も体験できる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意思を尊重しながら出来ることをしていただいている。食後の片付け時には利用者同士の助け合いの場面を見ることも出来た。自信をなくしていた利用者がようやく書いた字は職員に喜びをもたらしてくれた。こんな日々には職員は利用者にも助けられ育てられていると思いを語ってくれた。		
III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から生活暦等について聞き取り、本人の行動や会話からも汲み取るようにしている。職員が利用者家事の参加を促す声掛けにより利用者同士が相談して自発的に取り組む姿が見られるようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から思いや希望を聞いて生活歴から活用できることを引き出しながら介護計画を作成している。職員の介護に対する思いの違いは担当者を含め良く話し合うことで入居者個々に相応しい計画が作成されている。	○	ホームにお任せというケースでも、利用者がより良く暮らすために、根気良く家族の意見や意向を聞いて、介護計画に活かせる工夫をされたい。また、職員の意識統一を図るために定期的な会議やミーティングの開催が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～4ヶ月に一度、また状況に変化があった場合には、随時見直しを行い、適切に対応できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況やその時々々の要望に応じて通院・買い物等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に対応しているが病院の問題は地理的な面で難しいことが多い。受診には職員や家族が付き添っているが通院シートを作成し本人に必要なことが伝わるように取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに一名の終末期に携わった。家族やかかりつけ医との話し合いで意向の確認をし、家族にも医療のマニュアルを渡して連携したが、地理的な問題を含めホームの負担は大きかった。看護師職員の指導と職員の協力も良く、最後まで取り組むことが出来た。	○	重度化や終末期に対するホームとしての方針を明文化し、利用者や家族の意向を大切に早い段階から家族・医師・職員等で共有されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症利用者への対応が馴れ合いにならないよう時に気を引き締めている。利用者個々に合わせた対応をしているが、職員の言葉遣い等行過ぎた場面には注意や助言をして利用者のプライバシーを損なうことが無いよう意識付けを図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者が今何をしたいのかを、行動や言動で感じ、受け止め、できるだけ希望に沿えるよう支援している。喫煙所までリハビリを兼ねて歩行訓練したり、食後のお盆を納得行くまで拭き上げる利用者の仕事ぶりなど思いを大切にしている支援を感じることができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫された野菜を使った献立で職員も利用者と同じ食事をいただいている。一緒に後片付けをしている利用者の姿も見られた。家族も加わった誕生会やファミリーレストランでの食事なども時には楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は火・木・土であるが、入浴時間は利用者の希望にあわせて臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことや、生活歴等を把握し、車拭き・編み物・ピアノ演奏・カラオケ・小鳥の餌やりなど、個々に役割や楽しみごとを見つけ、活かせるように支援している。普段は字を読まない利用者が百人一首を読み上げたり、地域のクリーン作戦にも出来る方は地域の一員として参加しているが、意欲の低下で参加できない利用者も見られる。	○	きっかけ作りや場面作りの工夫や継続をお願いしたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には庭や庭続きの畑、またホーム周辺の散歩に出掛けている。職員が付き添って、畑仕事をする場面が見られたが利用者は、声まで生き活きとし、職員との会話も弾んでいた。いきいきサロンや図書館、足湯など利用者の喜ぶ外出を出来るだけ多く支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵はかけていない。訪問当日も利用者は玄関を自由に入出入りして庭を散歩したり、すずめに餌をやっていた。敷地から外へ出る利用者は居室から見守りをしており、不穏時にはユニット同士の声の掛け合いで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。内1回は、消防署と合同で行われた。運営推進会議で、地域の方の協力参加をお願いしている。	○	今後は地域の方も参加していただき、地震発生時や、夜間を想定した訓練にも取り組んで行かれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録が充実しており、利用者の栄養摂取割合が把握されている。水分摂取についてはチェックシートを作成して記録に残るよう取り組まれていた。食事制限や、医師の指示がある方場合は、個別に対応できる体制である。調理師資格を持った職員がいることから野菜をメインに食材を吟味しバランスの良い食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔で、壁面には利用者の作品の絵画や書、近所の子供が遊びに来た時に描いた絵などが飾られていた。食堂の広い窓からは、暖かな光が差し込んで回りの木々や集まってくる小鳥達の様子が窺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた箆笥や椅子、表装された掛け軸の作品などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋作りがされていた。掃除も行き届いていた。		